

質問にお答えします～高等部進学のための準備は？～

4月に入学した保護者の方から「高等部進学を目標に、本人をサポートしたい。進学条件などがあれば知りたい」旨のご質問をいただきました。ご質問いただき、ありがとうございます。入学時点から先を考え準備する意識はとても大切です。

本校高等部に進学するためには、入学者選抜に出願する必要があります(募集要項より一部抜粋)。

【出願資格 ← 一部抜粋のため詳細は、本校ホームページから募集要項を参照してください。

(1)知的障害があり、愛護手帳(療育手帳)を有する者、又は医師による知的障害者であることの証明書を提出できる者

(2)令和＊年3月に特別支援学校の中学部又は中学校を卒業する見込みの者 ← ＊は中学部卒業の年

【選抜方法】調査書、諸検査及び面接の結果に基づき公平かつ総合的に判定する。

本校中学部の学習を3年間しっかり積み重ねることで(個別的教育支援計画に基づいた取り組み)十分合格できると考えていただければと思います。塾に通う等の受験勉強をする必要はありません。また、3年生になると募集要項を含め案内や手続きについてお知らせしますので、安心してお待ちください。

～将来から今を考える視点を！～



ご質問のように将来に備える視点はとても大切です。最近、障がい当事者の高齢化が国の課題の一つにもあげられており、「親なき後はどうするか、どう備えるか」が、大きなテーマとして取り上げられるようになっていきます。

高等部卒業後、自宅から会社や施設に通う卒業生は多いですが、親も子も年齢を重ねていきます。親の高齢化により子どもの身の回りのことを十分にできなくなります。毎週ドライブに連れて行ったり、一緒に外出したり買い物にいたりといったことができなくなったりもします。そうすると福祉サービスに頼ることになりますが、親のように24時間対応は無理です。親が介護を受けるようになると、自宅で過ごしてきた卒業生がいきなりグループホーム等で生活することになるかもしれません。そうすると相当なストレスとなるでしょう。

反面、親も子も若いうち(今)から、自分でできること、行動できる範囲を広げておけば、ヘルパーが来るのを待たなくても自分でできる、自分で楽しむ、買い物する等の生活を自分のペースで続けられます。

自立に向けての取り組みとして「1つずつ伸ばすこと(ボトムアップ)」だけでなく“将来のために今〇〇をやる(トップダウン)視点”を加えてみると、自立に向けた視野が広がる可能性が出てきます。

以下の例のように「〇〇できるように(△△する)」の“△△する”は本人に合わせて考えてみてください。

「一人で生活できるように(例 まず祖母宅に泊める、ショートステイ利用してみる)」「一通りの簡単な家事ができるように…」 「一人(友だちと)で外出できるように…」 「道路を安全に歩けるように…」 「バスや電車に乗れるように…」 「信号の見方、道路の渡れるように…」 「自分の服を親と一緒に畳めるように…」 「外出時に家の鍵を開閉できるように…」 「自販機にお金を入れてジュースを選んで買えるように…」 「一人で寝られるように…」 等々 家庭でできそうなことのヒントは学校生活にもあります。担任に相談すると良いアイデアが出るかも！



今までやっていたことを年齢相応に見直す・やめるのも取り組みです。幼児期から続けている習慣を見直してみると良いですね！